

2022年横浜ナザレン教会・復活後第一主日(4/24)礼拝

「教会の根本的な姿」

使徒言行録第2章 40 節から第 2 章 47 節

使徒言行録 2: 40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。46 そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

1 教会の根本的な姿

今日の聖書は、教会の根本的な姿について描いており、ここに横浜ナザレン教会のもとの姿、原型がある、と聞くと、皆さんはどう思われるでしょうか。ちょっと読んだ限りでも、共通点よりも異なる点の方が多いようです。横浜ナザレン教会は七十二年の歴史を持ちますが、全部合わせても三千人もの受洗者を出してはいません。牧師や役員、信徒たちも、人目を惹く不思議な業や徴を行うわけでもない、全ての持ち物を共有することもしていません。聖霊降臨の日、ペトロの説教の後に姿を現した教会は、現在の私達が馴染み深い教会とは随分と違ったもののように見えます。

しかし、そうではないのです。ここに教会の根本的な姿がえがきだされているのは、確かなのです。聖霊なる御神が降ってから2000年が経ちました。その歴史の中で色々な形の教会が生まれましたが、それらの教会全ても根本的には、今日の聖書に記されている教会と同じでありました。どういうことでしょうか。今日は、聖霊降臨の出来事の後に現れた教会の根本的な姿をご一緒に見ていきたいと思えます。

2 使徒の教え

聖霊降臨の日に誕生した教会の様子を作者のルカは42節に次のように、印象深くまとめています。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」最初に「使徒の教え」とあります。この「使徒の教え」とは、説教の言葉だ、と言われていきます。聖霊降臨の日に起こった出来事で言えば、第二章の14節から36節まで、「イスラエルの全家は知らなければなりません。あなたがたが十字架に架けて殺したイエスを、神は主とし救い主とされたのです」と宣言した説教が先ず挙げられます。そしてこのペトロの言

葉に心打たれて「私達はどうしたらいいのでしょうか」と問いかけた人々に対して、悔い改めと洗礼を勧めた38節から39節の言葉、そして、40節、「ペトロは、このほかにもいろいろ話を
して、力強く証しをし、『邪悪なこの時代から救われなさい』と勧めていた。」という言葉が、
「使徒の教え」に当たります。

「邪悪なこの時代から救われなさい」の「邪悪な」と訳されている単語は、「曲がった」とし
たほうがよい言葉であり、口語訳聖書をはじめ「曲がったこの時代から救われなさい」と訳し
ている聖書の方が多いくらいです。「曲がっている」、つまりまっすぐではないのです。曲が
った時代では、みんな、曲がって生きているものですから、それがまともだ、と勘違いしてし
まいます。

ペトロが生きた時代だけでなく、現代も又、「曲がった時代」です。それはウクライナ侵攻
に対する姿勢によく表れています。ある人は、「この戦争は、戦場が我々の日常に飛び込ん
でくる」と語ったそうです。Twitter やインスタ等のソーシャルネットワークシステムが発達し
て、スマホさえあれば誰でも戦争の現場を世界に向けて発信する事ができる時代です。ロ
シア軍が行った目を覆うような残虐な行為を、戦場から遠く離れている私達も日常茶飯事
のように目にします。そのすさまじさ、あまりの酷さに非難が集中するのは、当然のことによ
う。しかし、日本では、日本に住むロシアの人々に対するヘイト行為が行われるようになりま
した。ロシア人というだけで、悪態をつかれ、ロシア料理店では建物を壊される、等の被害も
あるようです。JR 東日本は、「残虐行為を行うような民族の言葉を見るのは不愉快だ」と言う
非常識なクレームに対応して、恵比寿駅に設置していたロシア語の案内板を撤去する、と
いう事も起こりました。まるでロシア人は生まれながらに鬼畜のような人間であり、ウクライナ
が絶対的な正義、ロシアは絶対的な悪、プーチンは人間ではなく悪魔だ、と決めつけ、大
声で糾弾する声は、テレビにネットに巷に溢れています。私はプーチンにもロシア軍にも味
方するつもりはありません。が、しかし、ロシアに対して正義のこぶしを振り上げる前に、忘れ
てはならない事があると思います。ロシア軍と同じような残虐行為を、日本帝国軍もアメリカ
軍、イギリス軍、ナチス・ドイツ軍も、中国軍も他の多くの国の軍隊も、多かれ少なかれ行っ
てきた、という事です。日本は朝鮮半島や中国大陸で残虐行為を繰り返したし、アメリカは、
原爆投下という核兵器を使ってジェノサイドを行った唯一の国です、

ロシアもアメリカも、ヨーロッパ諸国も、日本も中国も、アフリカ諸国も、皆、まっすぐではな
い、曲がっているのです。自分達が神々となり、他者を蔑ろにするし、戦場では、平気な顔
で残虐非道な仕打ちをする、この点ではすべての民族は同じです。曲がっているのです。
しかし、この邪悪な時代はそれを認めたがりません。全ての人を、善か？悪か？に色分け
し、悪を裁き滅ぼそうとします。決まって自分がいる方は「善」、敵対する方が「悪」です。そ
のありようは、神の子イエスさまが地上に来てくださった時に、従来のユダヤ教の枠を大きく
超えたお方であったが為に、みんながよってたかってイエスさまを悪者と決めつけ、遂には
殺してしまった、事となんら変わりありません。曲がった時代に生きる者達は、神からの救い
主を十字架に架けるしかありません。「あなたがたが十字架につけて殺したイエス」とある通

りなのです。

「曲がったこの時代」、曲がっている、では何に対してでしょうか。天地万物を造られた全知全能の御神に対して、まっすぐではない、曲がっているのです、いや、よじれてさえます。だから、神が見えない、見えにくい、そして、神などいない、自分達が神だ、と勘違いするのです。しかし、そのような生き方を待っているのは、神がいない、永遠の滅びです。

だからこそ、ペトロは、「この曲がった時代から救われなさい」と語ります。この「救われる」というのは、文字通り、滅びの危機にあった命を救われるのです。主イエス・キリストの十字架によって、天の御神との曲がった関係をまっすぐにして頂いた、主イエスが与えて下さった神とのまっすぐな関係に生きる時、神が神として生きて働いておられる、私達を深く正しく愛しておられることを深く悟る事ができる、つまり、救われる、とは、その天の御神の義なる愛の内に生きることで、肉体の死によって迎える永遠の滅びから、永遠の命に移される、ペトロを通して、聖霊なる御神はそうおっしゃいます。このペトロの言葉こそ、使徒の教えであり、説教の言葉です。それは現代でも変わりません。

3 神を恐れ礼拝する

このような使徒の言葉、説教の言葉を聞き、滅びが定められた邪悪な時代から外に出て、イエス・キリストの永遠の命の内へと入った者達の集まりが教会です。ですから、教会は、この世の共同体とは、根本的に異なります。教会は、天のみ神とのまっすぐな関係に生きて、御神が確かに生きて働いておられる事を経験し、証する共同体です。だからこそ、この世は、教会を恐れるのです。それは、暴力的な力によって脅かす恐れではなく、人知を超える絶対的な者の力、聖さが与える戦きです。43節に「**全ての人に『恐れ』が生じた**」とある通りです。

勿論、教会に生きる私達も神への恐れを失ってはなりません。神とのまっすぐな関係は、神を畏れ、神を神とすること、神を畏れ敬い、神を大きくし自分を小さくして礼拝し、祈り、神の言葉の説教を聴き賛美する、このように礼拝する事こそ、神との関係をまっすぐにする事、強くすることです。神とのまっすぐな関係に生きる教会の根本的な姿は、神を礼拝することです。

4 相互の交わり

しかし、今日の聖書には、心騒ぐ言葉があります。財産所有を禁じるようにも読める44節から45節の言葉です。「**信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り**」という言葉。三十年前にオウム真理教が引き起こした一連の事件によって、私達日本人の宗教に対する考えは深く傷つき、このような急進的な言葉に過敏に反応します。だからでしょうか、ルカがこのように記す理由が色々と考えられてきました。

当時の使徒や仲間達は、本当に今すぐにでも、主イエス・キリストが再びおいでになり、この世の終わりが来る、と信じ込んでいたから、財産を売り払って皆で分け合う事ができたの

だ、と考える人々もいます。又、この部分は、ルカが最初の教会を理想化して描いたのだ、と解釈する人もいます。しかし、実際、私有財産を全部ささげて入団する、という規則のある信仰共同体は、今までもあったし、今もあります。死海のほとりの洞窟から古い聖書の巻物が発見されて有名になったクムラン教団も、入団時に全財産を教団に献げる、という規則があったそうです。彼らも又、もうすぐ世界の終わりが来る、と信じていたからでしょう。

しかし、最初の教会では、教会入会の際に、財産の放棄を強制する事はありませんでした。45節の後半に「**おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った**」とある通りです。各自の自由な意思によってささげものをし、皆でそれを分け合った、というのです。誰にも「差し出しなさい」と強制される事はなかったようです。

それぞれの自発的な想いでささげられたものを、皆で分け合うというのは、42節にある「**相互の交わり**」が具体的な形を取ったものだと言えるでしょう。ギリシャ語ではコイノニア。皆さんも聴いたことがあるかもしれません。この言葉には、次のような意味があります。共同すること、協力すること、交わること、一つのものに共に与ること。特に注目したいのは、次の意味です。「**一つの源から分かち合って受けること**。」教会の仲間の相互の交わりとは、十字架の主イエス・キリストの復活の生命、永遠の生命という一つの源に皆で全員で与ることからくる、というのです。

それが最もよく表れているのが、42節にもある「**パンを裂く事**」です。「**パンを裂く事**」というと私達はすぐに聖餐式を思い起します。が、教会ができてすぐの聖餐は、信徒同士が集まって同じ食卓につく、所謂、愛餐とは、特に区別されてはいなかったようです。使徒言行録より前に書かれたパウロの手紙によれば、大きな会堂に全員が集まるのではなく、自分の家に近く、大きな部屋のある教会員の家に集まり、お互いに持ち寄った食物を出し合い、皆で食卓を囲んだようです。特にその食事の時、喜びと真心をもって一緒にパンを裂き、イエス・キリストを思い起して、食事をしました。これは、現代の教会にも生きている助け合いの心です。貧しい仲間達、特に貧しい子供達を、自発的に教会の仲間同士で助け合うことは、少なからずの日本ナザレン教団の緒教会で行われている事です。必要なものを出し合って、仲間で助け合っていく、相互の交わり、という愛の業が教会の根本的な姿である、とルカを通して聖霊は語ってくださいます。

それは、教会がイエス・キリストと出会った者達の群れだからです。イエス・キリストと出会い、自己中心的に生きていた者が、相互の交わりに生きる者に変えられた者に収税人ザアカイがいます。背の低いザアカイは、なんとか、木に登り、葉陰に隠れてイエス・キリストを見ようとしていました。しかし、そのイエスさまが、葉陰に隠れるザアカイのもとに近づき、まっすぐに彼を見つめて仰います。「**今夜、私はあなたの所に泊まる事になっている**」。「**泊まる事になっている**」とは、「私がザアカイ、あなたのもとに行くのは、神のみ旨です」という意味があります。ザアカイは、この主の言葉を聞いた時、びっくりしたでしょう。人々から忌み嫌われるこんな自分であっても、天の御父は、イエスさまは、深く愛してくださり、まっすぐなその眼差しの内に入れて、自分を尊く用いてくださろうとしている、と知ったからです。実際に自分の家

に来て、同じ食卓を共にし、仲間として自分を大切にしてくださいる主イエスを知った時、ザアカイは変えられました。自分の繁栄や救いだけ考えていた、曲がりに曲がったザアカイのもとにまっすぐなイエス・キリストが来てくださり、神の愛を伝えて下さった。だから、ザアカイは、宣言できたのです。「イエスさまが深く愛する貧しい人々の為に自分の財産の半分を使います。」ザアカイは、自分を滅びから救ってくださったイエスさまの愛に応え、イエスさまの愛を証したのです。

だから、教会の相互の交わり、コイノニアで行われる助け合いは、単なる慈善事業、人間的な善行ではなく、イエス・キリストの愛を知った者が、隣人を愛し、その愛を証する事なのです。罪びとの為に命を投げ出すイエス・キリストの十字架の愛こそ、罪びとを生まれ変わらせ新しい命に生かす甦りの力、創造の力を持っている事を想わされます。

5 教会

主イエス・キリストの復活の力、聖霊の御力は、人々を変えて、キリストの愛のもとに互いに助け合う共同体を新たにつくり出しました。そして、この目に見える形で現れ出た神の恵みは、教会という壁を越え、共同体の外にもあふれ出します。外の人々の間にも力を及ぼして、日々、主が仲間に加わえてくださいます。

だからこそ、私達は、まだ曲がった世界にいる方々の為に祈ることを主から求められています。プーチンの為にも、ロシア兵の為にも祈りたいと思います。イエス・キリストが出会ってくださり、悔い改めて残虐行為と戦争を辞めることを。ウクライナの人々も、霊的にも肉的にも守られ、戦争で負った深い傷が癒されるように、そして、いつかは憎しみから解放されるように、祈りたいと思います。人間の力ではできる事ではありませんから、天の父なる御神に祈り求めたいと思います。

それが、主イエス・キリストの十字架によって救い出され、復活によって新たに主の愛の内にこの時代を生きる者とされた私達がなすべき事であり、聖霊降臨の出来事によって生まれた教会の在り方だと思います。教会がこの世の曲がった姿に追随しないための守りとなります。

教会の歴史を眺めると、その力の源であるイエス・キリストを見失ったことが度々ありました。キリスト・イエスに倣うのではなく、「邪悪なこの時代」に倣って神との関係を曲げてしまい、自分達が神のように振舞いました。教会にも、「邪悪なこの時代」が入り込むのです。

しかし、教会は、礼拝することだけは忘れませんでした。礼拝に注がれた聖霊なる御神が誤った方向に進んでいた教会を主の十字架の下へと呼び戻し、悔い改めへと導いてくださいます。この2000年間、何度となく教会は礼拝し続け悔い改め、新しく生まれ変わってきました。そうして、聖霊降臨の日に誕生した教会は成長しつつ、この世界に神の国を宣べ伝えて行きます。横浜ナザレン教会も、この聖霊降臨日に誕生した教会の後に続く教会です。世代交代という大きい曲がり角にいる私達の教会。今日、午後から2022年度の教会総会で、これからの教会の在り方や活動について話し合います。先ず、今日の聖書が私達に

語りかける教会の姿に沿って、天におられる御神が、横浜ナザレン教会がどうある事を望んでおられるか、祈り求めたいと思います。神は、主イエス・キリストのみ名を呼び求める者を決して放ってはおかれませんが、そう、教会は主のみ名を呼び求めて、救われる者の集いだからです。